

## 海外研修報告書

星野加代（中南米）

この度平成 25 年度「卓越した大学院拠点形成支援補助金」を受け平成 26 年 2 月 25 日から 3 月 20 日にかけてチリ共和国において海外渡航調査を行った。以下に調査活動の報告を記したい。

本調査は博士論文執筆に必要な資料収集を目的に実施された。報告者はこれまで 1980 年代以降のチリにおける福祉の発展とその発展における政府・市民集団の役割を調査してきた。その過程で、日本では収集が難しい地方レベルでの政府・市民集団の関係に関する資料収集の必要を感じた。また、2000 年以前の経済指標、市民組織の活動等のデータ収集も必要であった。

本調査は首都サンティアゴ市(2 月 26 日～3 月 6 日、3 月 13 日～3 月 18 日)と南部ラ・アラウカニア州の州都テムコ市(3 月 6 日～3 月 13 日)で行われた(2 月 25 日および 3 月 19、20 日は渡航で生じた移動日)。サンティアゴでは国立図書館、国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会図書館で資料・文献調査、社会開発省、地方・

行政開発庁で資料調査、市民組織の全国自治体職員連合(Asemuch)で聞き取り調査を行った。社会開発省では貧困対策分野の文書を中心に収集した。Asemuch は他の市民組織に比べ公開されている情報が少ないため、昨年全国規模で行われたストライキを中心に活動内容や政府との関係等を伺った。



写真 1 社会開発省にて



写真 2 Asemuch サンティアゴ本部にて

テムコでは地域地方開発研究所(IDER)、国立統計局、アラウカニア州庁での資料調査、新聞記者、Asemuch テムコ支部での聞き取り調査、先住民文書館での資料・文献調査を行った。IDER は地方行政研究データをいただくことができた。テムコでも Asemuch を調査したが、ここでは組織構造に焦点を当て調査を進めた。全国レベルでの活動と地域レベルでの活動の違い、他地域の支部との関係等を伺った。



写真 3 IDER ペットィ所長(左)、フロンテラ大学社会科学部ガルシア教授(右)

本調査は当初の計画を概ね遂行することができた。資料収集に加え、現地研究者との交流により人脈を格段に広げ博士論文に関するご指導をいただくことができ大変充実した調査となった。

博士論文執筆にはもちろん今後の研究生活においても大きな財産となるだろう。何より本調査は「卓越した大学院拠点形成支援補助金」の支援により実現した。関係者の皆様に心より感謝を表したい。